平成２１年度　平塚市住居表示審議会　会議録

日　時　　平成２１年５月１日（金）午後２時～２時４５分
場　所　　平塚市議事堂　第２委員会室
出席者　　《委員》◎伊藤　裕、臼井照人、後藤輝彦、小清水佐吉、長本節子、渡部邦夫、柳川昌彦　　（順不同、◎は会長）
《市》大藏市長、井上まちづくり事業部長、石田まちづくり事業課長、二之宮課長代理（市街地再生担当）、磯村課長代理（区画整理担当）、杉山主査、水嶋主任、大島主事

諮問事項【真田、北金目地区住居表示整備事業　　町の区域及び町名について】

市長から伊藤会長へ諮問文の提出　（別添　写し）

まちづくり事業課長による諮問内容の説明

委員間による審議

（質疑応答要旨）

〇渡部委員
現況で空き地の場合、住居表示付番の際にはどうなるのか。
●事務局
街区内は基本的に１０メートルきざみで住居番号を付番していき、建物の主要な出入り口が接する番号を採用していく。したがって、現況が空き地の場合は、採用されない住居番号が発生する場合はあるが、それにより将来的に建物が建った場合に付番する際、重複や番号の入り乱れが回避できるとご理解いただきたい。

〇小清水委員
今回の住居表示実施で真田、北金目の郵便番号はどうなる？
●事務局
真田、北金目とも当面は住居表示実施地区と未実施地区が並存することになるが、町の名称は同一なことから、同じ郵便番号を使用していくことも可能になるのではないかと考えられるが、今後、郵便事業会社サイドと協議していきたい。

○臼井委員

最近の住居表示の実施事例は、全国的にも「△丁目×番☆号」というように、とてもすっきりと、分かりやすくなっていると思うが、石川県金沢市のように、古くからの歴史的な地名が採用されているケースもあると聞く。地元ではそのあたりがどう協議されてきたか、伺いたい。

●事務局

地元の推進協議会でも、古くから残る地名（小字名）を採用しては、との提案も一部にあったが、検討の経過を経て、現在の大字名を冠するものに落ち着いた経緯がある。

金沢市の場合は、過去に実施した住居表示を近年に旧町名に復活させたケー スであると承知しており、その背景には、金沢が北陸の小京都ともいわれる歴史的土壌のある町であること、戦災に遭っておらず街の古い区画が残されていたことなどが挙げられると思う。本市の場合でみていくと、現実的に大字が定着している一方、小字ではかえってわかりにくくなる傾向が危惧され、結局は「大字」に因むものが採用されているようである。今回の経過も同様の選択と受け止めている。

○伊藤会長

今回、実施から漏れたピンク色で塗られているエリアについての説明を。

●事務局

具体的には、（北金目の）北久保の市街化調整区域部分と（真田の）区画整理エリア外の西部の部分である。いずれも地域の皆さんの実施に向けた合意形成にもう少し時間がかかる見込みであり、今後、地元に協議会的なものの設置を働きかけ、議論の促進が図られるよう支援していく。前の議会で議決を受けている大字を基本とした実施エリアの設定には変わりがない。

○臼井委員

この案の今後の流れ、地元住民への周知などについて伺いたい。

●事務局

この審議会で「特に異議なし」の答申がいただけたならば、６月に３０日間の公示にかけ、そのうえで９月定例会に議案を上 程していく見込みである。さらに議決を受けたならば、まず第１期として、真田の換地処分を考慮に入れつつ、２２年１～３月の時期に実施する。続いて第２期としては、真・北の換地処分を考慮に入れつつ、２３年３月以降の時期に実施していくことになる。

→上記の質疑の結果、特に異議なし、とする答申を行うことが全会一致で了承され、

同日付け、答申文がまちづくり事業部長に手渡された。　　（別添　写し）

その他

特になし

以　上